



情報誌

FAR

33 号

事務局：公益社団法人 日本放射線技術学会内

〒600-8107 京都市下京区五条通新町東入東鋸屋町 167 ビューフォート五条烏丸 3F

TEL:075-354-8989 FAX:075-352-2556 <http://www.jsrt.or.jp> Email:office@jsrt.or.jp

《ごあいさつ》

元気なFAR会を期待しています

副会長 山田勝彦



例年になく厳しい寒さに見舞われた今年の冬もやっと終わり、太陽の光の暖かさを有難く感じる素晴らしい季節となりました。この寒さのお蔭で我が家の梅の開花も1月以上遅れ、桜の開花と繋がってしまった感じがします。東日本大震災地の仮設住宅や避難地にお暮らしの方々も、今冬の寒さには大変なご苦労をされたことと心よりお見舞い申し上げます。

さて FAR 会員の皆様はお元気でしょうか。昨年は FAR 会発足 10 周年というおめでたい年を迎えましたが、この1年間を振り返ってみて、しみじみと感じたことは例年になく物故者が多く、1年で5名もの方々がご逝去されたことでした。そこで、これら

の方々を少し回顧してみたいと思います。

北海道では松田義勝先生と中間光男先生がご逝去されました。そして両先生ともに2006年10月に定山溪で開かれた「2006 北への集い」に参加され、そのとき楽しく呑み交わしたことが私にとっては最後のお別れとなりました。お二人ともに初期の JSRT の運営に大変ご尽力された方で、とくに中間先生は北海道部会の理事として京都での理事会に年数回に亘り、札幌から日本海回りの列車に長時間乗って来京されていました。

そして東北の佐々木正寿先生には「2010 仙台・松島の旅」のお世話を献身的にして頂き、東日本大震災前の美しい松島の風景を見せて頂いたことが、実に鮮明に今も脳裏に焼き付いています。お若くして他界されたことは誠に残念なことでした。

また、東京の柴田英三郎先生は長年にわたり JSRT の理事、監事をお努め頂き、また東京部会の発展にも多大の貢献をされ、本学会の発展に大きくご尽力して頂いた偉大な先生でしたが、誠に残念ながらのご他界でした。

さらに山口の大塚昭義先生が73歳の若さで他界されました。

大塚先生と言えば「山口ゼミ」は余りにも有名で、このゼミから多くの若い研究者を輩出され、今日の学会の研究基盤を作られると共に、自らも JSRT の多くの役職を歴任され、本学会の発展に多大の貢献をされたことは大きく評価されるものです。

FAR会会員の平均年齢も年々増してはいますが、二度とこのような不幸な年が起らないことを願うばかりです。昨秋の「2011淡路島を巡る旅」では全会員数のおよそ三分の一に当たる31名が参加され、伊弉諾神宮で会員の無病息災もお祈りしてきました。どうかこれからは会員の皆様ご自身も健康維持に積極的に努めて頂き、「元気な FAR会」であることを心から願うばかりです。

内 容

- | | | |
|-----------------------|-----|-------|
| 1. ごあいさつ | 副会長 | 山田勝彦 |
| 2. 「2012 懇親の夕べ」 | 横浜 | 石井 勉 |
| 3. 「2012 箱根を巡る旅」 | 予告 | 山田和美 |
| 4. 会員動向 | | |
| 5. 特集「私のひととき」 | | 今井方丈' |
| 1)、My ほっと (=Hot) ひととき | | 遠山担彦 |
| 2)、頭の切り替え方法 | | 前田幸一 |
| 3)、Time flies | | 宮地利明 |
| 6. 訃報 | | |
| 中間光雄先生 | | |
| 松田義勝先生 | | |
| 7. 会員投稿 (寄稿) | | |
| 癒しの一枚 | | 清水久子 |
| 8. JSRT 情報 | | |
| 9. 第 34 号 {特集} 原稿募集 | | 富吉 司 |
| 10. 連載 (ご当地自慢 わが街 | 徳島) | 八木浩史 |

《2012 FAR 懇親会の夕べ》報告

懇親の夕べ（横浜）

世話人 石井 勉

昨夜（平成 24 年 4 月 13 日）からの雨風が朝になっても止まず、満開の桜花も雨風に打ちひしがれていたのを見てなんて事だと口走っていたことを思い出します。日本放射線技術学会定時総会が早めに終了したときも、雨風は少しも衰えること無く、ますます強くなっているようでした。雨風が朝から降っていたので気持ちを切り替え、この雨風は出航するまでには上がると決めつけていたのですが。うーん残念。総会の終了予定が 19 時なので出航時間を 19 時 30 分に設定し、出航場所を桜木町屋形船発着場から総会会場に近いプカリ栈橋からの乗船としたのに、それなのに定時総会は順調に進行し短時間で閉会しました。まだ出港まで 1 時間近くあるとは。出航時間前頃に出席者がぼちぼち集合し、屋形船も栈橋に到着し長い待ち時間にさよならです。でも雨風は強かったです。

予定通りの開始時間にまず、各自座布団に座ってくださいのお願いの後、橋本 宏会長挨拶をいただき、前田 幸一様の乾杯の音頭で懇親会のはじまりはじまりー。まだ雨は降っていますが少し風が落ち着いてきたようです。

船は貸し切りで飲み物は飲み放題、カラオケ付き歌い放題です。また船内での注意事項の確認を酩酊前に聞く事が出来誰も海に飛び込むことはありませんでした。危険防止とおいしく仕上げるために天ぷらは停船してあげるとのことでした。湾の中での航行でしたので心配したほどの揺れも無くひと安心です。料理はお刺身の大漁大船盛り、金目鯛の煮つけ、エビやイカ、野菜などの揚げ立て天麩羅、大きな自家製薩摩揚げ、枝豆、鶏のから揚げ、小鉢、うどん、果物などでした。漬け物もありました。

港横浜の海からの夜景を十分に満喫しようと企画したのですが、誰が雨男やら。ぬれたガラス越しのにじんだビル街を眺めよく食べ、よく飲みました。そしてカラオケでの熱唱も始まる頃にはやっと雨も上がり船の窓を開け航行を実感しました。雨上がりの夜景もいいもんですなどの会話もありました。おいしいものを食べ、船に酔



わず、酒に酔い美声のカラオケに酔い、すべてを満喫しましたところで、もうお腹いっぱい酒もういいとの声が聞こえてきましたので、着岸時間を早めて 9 時としました。若い頃の暴飲暴食が今利いてきたようでした。この頃の私もだんだんわからなくなってきました。

時間通り桜木町の船着き場へ着いたところで私の記憶がありません。おいしいおいしいワインの差し入れと多大なるご寄付をいただき心から感謝しています。参加人数 26 名にて春の懇親会無事終了です。秋もよろしく願います。次回乞うご期待。

《2012 秋の FAR 会》予告

「2012 箱根を巡る旅」へのお誘い

世話人：山田和美(代表)、四宮恵次、伊藤敏夫

第 40 回秋季学術大会が久し振りに東京都内で開催されることになりました。それに関連した今回の旅は“箱根の山は天下の険”と唄われたのも今は昔、正月恒例の“東京－箱根間往復駅伝”で有名な「箱根を巡る旅」と致しました。

観光バスの運転手が“箱根は、山あり、谷あり、湖あり、そして富士を眺めながら温泉に浸り、山海の珍味を味わいながら盃を交わす観光地で、もっともっと自慢しても良い処ですよ”と言われ、成程な。と思った次第です。

箱根は四季折々に違った顔を見せてくれますが、秋は「仙石原のすすき」が有名です。FAR 会の皆さんには、湯本温泉(ホテルおかだ)で「源泉とお酒を」嗜みながら、一夜を語り明かせて頂ければと願って居ります。なお、配偶者の同伴は会員扱いとして歓迎いたします。別室ご希望の方は部屋確保の都合上、早めにお知らせください。

記

開催日：平成 24 年 10 月 6 日（土）～7 日（日） 1 泊 2 日

集合地：タワーホール船堀 正面玄関 13:15 （出発 13:30）

宿泊先：箱根湯本温泉「ホテルおかだ」<http://www.hotel-okada.co.jp>

〒250-0312 神奈川県足柄下郡箱根町湯本茶屋 191 Tel 0460-85-6000

観 光：箱根遊覧（大涌谷、箱根神社など）

参加費：会員 25,000 円+5,000 円（会より助成）：非会員 30,000 円

行 程：6 日（土）タワーホール船堀 13:30 マイクロバス発

→ 湯本「ホテルおかだ」会食 宿泊

7 日（日）「ホテルおかだ」→ バスで箱根遊覧（大涌谷、箱根神社など）

→ 昼食（箱根湖畔荘）→ バスで小田原駅へ（15:00 解散予定）

申し込み方法など、詳しいことは情報誌 34 号（9 月）で案内いたします。



《報告事項》

【平成 23 年度事業報告】

1. 会員動向 会員数：95 名（平成 24 年 3 月 31 日現在）
 新入会：5 名（伊藤敏夫(4 月)、金尾啓右(4 月)、本間龍夫(6 月)、
 久保昌博(7 月)、友光達志(8 月))
 退 会：2 名（小山一郎(4 月)、垣内三郎(2 月))
 死 亡：5 名（柴田英三郎(3 月)、佐々木正寿(9 月)、大塚昭義(10 月)、
 中間光雄(11 月)、松田義勝(1 月))
2. 学術大会（春、秋）に合わせた親睦・交流事業の推進
 1) 第 67 回総会時の企画「2011 FAR 懇親の夕べ」は、東日本大震災のため中止
 2) 第 39 回秋季学術大会時の企画「2011 淡路島を巡る旅」
 10 月 30 日（日）泊 淡路島「夢海遊」、10 周年記念懇親会など、31 名参加
3. 情報誌の発行
 第 30 号を平成 23 年 5 月 15 日、31 号を 9 月 15 日、32 号を平成 24 年 1 月 15 日に
 発行した。
4. FAR 会発足 10 周年記念事業

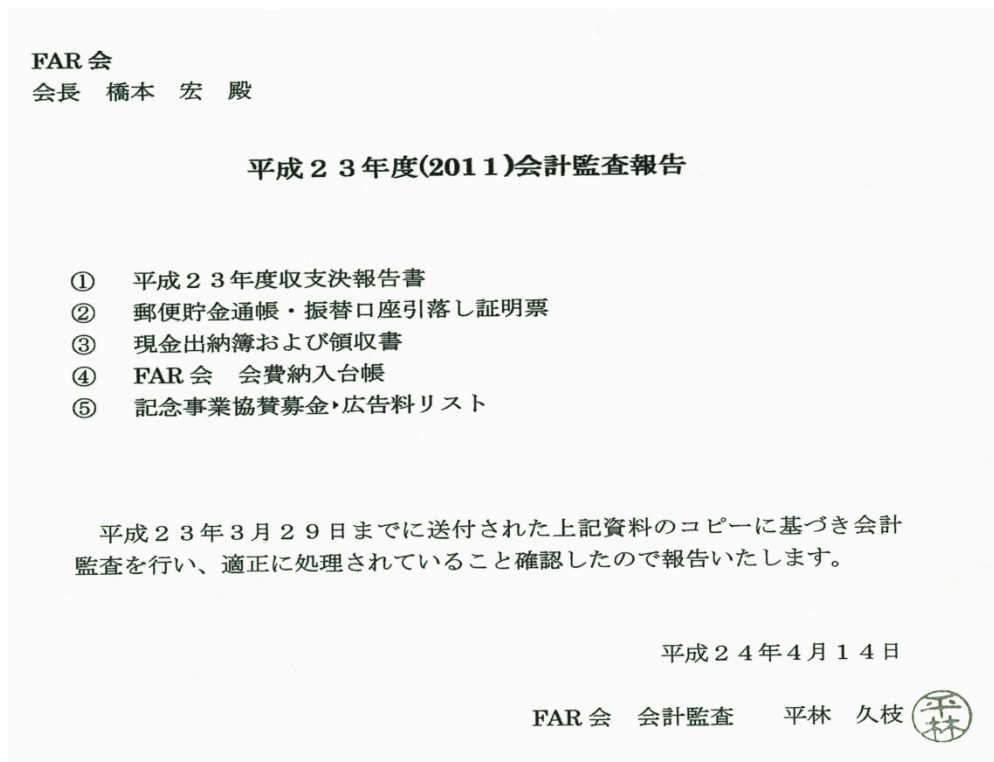
FAR 会シンボルマークの制定、10 周年記念誌の発行など、当初の計画通り実施した。
(詳細は、情報誌第 32 号「10 周年記念事業報告」参照)

5. 役員会・運営委員会の開催

役員会を平成 23 年 4 月（京都）、10 月（神戸）で、運営委員会を総務委員会と合同で
平成 23 年 7 月（熱海）、平成 24 年 1 月（名古屋）にて開催した。

6. その他、広報関係

FAR 会ホームページを年 3 回更新し、会員のメーリングリストの利用、活用に努めた。



「平成23年度収支決算報告」 2011.04.01～2012.03.31

(収入の部)

費 目	予算額	決算額	摘 要
前年度繰越金	690,152	690,152	
年度会費	200,000	198,000	99名分（未納1名）
寄付金	0	0	淡路島の寄付は記念事業寄付金へ
広告料	0	0	募集せず
懇親会費	500,000	765,000	横浜は中止、淡路20名→30名分
記念事業協賛費	150,000	663,000	（明細は別途）
雑収入	20,000	26,166	預り金振替など
小 計 (A)	870,000	1,652,166	収入差額（782,166 円）
預り金（24年度～）	322,000	426,000	75名分
合 計	1,882,152	2,768,318	
(記念事業協賛費明細)			
費 目	予算額	決算額	摘 要
事業協賛費（寄付金）	40,000	60,000	淡路での懇親会祝金2件
協賛募金	60,000	493,000	65名、246.5口
協賛広告	50,000	110,000	11社、22口
計(a)	150,000	663,000	収入差額（513,000 円）

(支出の部)

費 目	予算額	決算額	摘 要
情報誌作成費	40,000	30,000	29, 30, 31号、編集諸掛
懇親会経費	600,000	897,337	横浜は中止、淡路20名→31名分
記念事業費	150,000	91,484	(明細は別途)
会議費	50,000	42,000	役員会費用
運営旅費	80,000	100,020	運営委員会、総務委員会費用
通信郵送費	70,000	68,139	情報誌、会員・役員連絡など
事務用品費	20,000	42,177	インキ、用紙、CDなど
新規事業費	50,000	10,920	簡易製本機取得
雑費	5,000	9,300	振込み手数料など
小 計 (B)	1,065,000	1,291,377	支出差額 (▲226,377 円)
預り金 (24年度～)	322,000	426,000	75名分
次年度繰越金	495,152	1,050,941	
合 計	1,882,152	2,768,318	

年度収支差額(A－B) : 360,789 円

(記念事業費明細)

費 目	予算額	決算額	摘 要
通信費	30,000	32,425	依頼状、記念誌送料、封筒など
編集費	13,000	13,000	編集諸掛
印刷・製本費	30,000	23,348	用紙代、CD費用など
交通費	50,000	0	ボランティア要員の交通費など
事務費	27,000	6,686	用紙代など
雑費 (予備費を含む)	0	16025	記念特別表彰費など
計(b)	150,000	91,484	支出差額 (58,516 円)

年度収支差額(a－b) : 571,516 円

【平成 24 年度事業計画】

1. 学術大会 (春、秋) に合わせた親睦・交流事業の推進

1) 第68回総会学術大会時の企画「2012 FAR懇親の夕べ」は前年の企画をスライドし、4月14日 (土) 横浜市「すずよし」で開催予定

2) 第40回秋季学術大会時の企画「2012 箱根を巡る旅」

10月6日 (土) 泊 箱根湯本「ホテルおかだ」などを予定

2. 情報誌第33, 34, 35号の発行 (平成24年5月、9月、平成25年1月を予定)

3. 役員会・運営委員会の開催

役員会を平成24年4月 (横浜)、10月 (東京) で開催予定。

運営委員会を平成24年8月 (京都)、平成25年1月 (京都) で開催の予定。

4. 会員に共通する趣味、活動の推進とHP、MLを利用した会員の情報共有を推進する。

「平成24年度収支予算」 2012. 04. 01～2013. 03. 31

(収入の部)

費 目	金 額	摘 要
前年度繰越金	1, 050, 941	
年度会費	200, 000	100名分 (退会、新入会を加味)
寄付金	80, 000	横浜、 懇親会寄付金 (過去の実績から)
広告料	0	募集せず
懇親会費	868, 000	横浜 (9, 000×27名) , ○○ (25, 000×25名)
雑収入	20, 000	預り金振替など
小 計 (A)	1, 168, 000	
預り金 (25年度～)	322, 000	67名分
合 計	2, 540, 941	

(支出の部)

費 目	金 額	摘 要
情報誌作成費	40, 000	32, 33, 34, 35号、編集諸掛
懇親会経費	1, 020, 000	横浜 (10, 000×27名) , ○○ (30, 000×25名)
会議費	50, 000	役員会費用
運営旅費	100, 000	運営委員会、総務委員会費用
通信郵送費	70, 000	情報誌、会員・役員連絡など
事務用品費	20, 000	インキ、用紙、CDなど
新規事業費	10, 000	メーリングリスト登録、利用料など
雑費	5, 000	振込み手数料など
小 計 (B)	1, 315, 000	
預り金 (25年度～)	322, 000	67名分
次年度繰越金	903, 941	
合 計	2, 540, 941	

年度収支差額 (A－B) : ▲147, 000円

《会からのお知らせ》

- (1) 会員動向 ・会員数 : 95 名 (平成 23 年 3 月 31 日現在)
- ・平成 23 年度死亡退会者 : 5 名
 柴田英三郎(2011/3 逝去)、佐々木正寿(2011/9/26 逝去)、大塚昭義(2011/11/5 逝去)、
中間光雄(2011/11/9 逝去)、松田義勝(2012/2/12 逝去) (尚、下線は名誉会員)
- (2) 平成 24 年度 第 1 回役員会議報告
 2012 年 4 月 14 日 パシフィコ横浜会議センター 512 会議室 橋本会長以下 17 名
1. 会務報告
 2. 平成 23 年度事業報告・平成 23 年度収支決算報告・会計監査報告
 3. 平成 23・24 年度世話人の追加選任
 富吉 司(JSRT 元理事)、梁川 功(JSRT 理事) の両名を追加選任した。

4. 情報誌関係

- ・33号 発行日：平成24年5月15日
特集企画：担当 今井方丈、テーマ「私のひととき」
- ・34号 発行日：平成24年9月15日
原稿締切：平成24年8月15日
特集企画：担当 富吉 司、テーマ「絆一再考」
- ・35号 発行日：平成25年1月15日
原稿締切：平成24年12月15日
特集企画：未定

5. 懇親活動関係

- ・「2012 箱根を巡る旅」企画（案）承認
代表世話人：山田和美
日 時：平成24年10月6日（土）泊、7日（日）
宿 泊 先：箱根湯本「ホテルおかだ」
- ・「2013 懇親の夕べ」企画
代表世話人に萩原 明氏を指名した。
- ・春季開催の「懇親の夕べ」の開催日について
開催日時は、今後 JSRT 総会開催日時をさけて開催する事とした。
- ・FAR 会が行う春、秋の懇親会参加費は、特例として次のように合意した。
 - 1) 春の参加費は、会員同伴者ならびに JSRT 事務局職員については会員と同等とする。
 - 2) 秋季に開催している懇親旅行時に会員同伴の参加費は会員と同等とし、会員と同伴参加者が別室を希望された場合は、別に 5,000 円／1 名の負担をお願いする事とする。

6. その他

- ・メーリングリスト接続業者の変更について
- ・平成24年度第2回役員会議：平成24年10月6日 タワーホール船橋にて開催予定

【メーリングリストアドレスの変更通知】

利用いたしておりましたメーリングリストサービス会社がサービスを中止いたしました。
そこでこの度新しい会社と契約いたしましたので下記のメールアドレスに変更となりました。

メーリングリストアドレス

farkai@ml.circle.ne.jp

エフエーアールケイエーアイ@エムエルドットシーアイアールシーエルイー・ドットエヌイー・ドットジェイピー

既に登録いただいております皆様のアドレスは担当者が新規登録いたしました。

新しく登録を希望される会員の方は担当の草山までご連絡お願いいたします。

草山 泰子 kusaya@ceres.ocn.ne.jp

《特 集》

「私のひととき」

33号の特集のテーマを「私のひととき」とさせていただきました。

多くの人たちと関わりながら生きていく中で、自分だけの時間を持つことは思ったほど簡単ではありません。

日々の生活において、どこかで環境の変化に応じてスイッチをきりかえなければならないとき、ふっと自分だけの時間が欲しいときがあるのではないのでしょうか。

このような『時間(と空間)』について、お三方から玉稿をいただきました。

三者三様のアプローチであり、素敵なお特集になりました。

ありがとうございました。

(企画担当 今井方丈)

「My ほっと (=Hot) ひととき」

相模原市 遠山坦彦



今回のテーマは職場に社会に忙しく過ごされる人達が、人との係わりを遮断するときを意図されたようですね。ところが、退職すると365日休日で人と深く接する機会も減り、いつしか「自分だけの時間」が連続する様になりました。「人様とつながるとき」が生活のアクセントになります。つながりの選び方は、煩わしい面倒なことを避けながらチョッピリ緊張感の伴う「ひととき」を歓迎することもあります。特別企画の趣旨とは逆転します。天邪鬼な考え方ですかね。

今、そのような「私のひととき」の一つに学会参加があります。理解出来そうなプログラムを見つけ出し、講演や発表を聴く緊張感のある時間ですね。

そこでは、難解なことを理解しやすく展開・説明してもらえる優秀な人と出会え、席を並べる雰囲気は素晴らしく、少しの会話が嬉しくなる「ひととき」になります。

発表はご存知のごとく短い時間です。講演も内容が盛りだくさんで、お話の咀嚼が出来ないまま通り過ぎることも多く経験します。日を改めて多忙を極める“旬の人”に時間を割いて貰うことを心苦しく思いながら、プライベート教授を電子メールでお願いすることになります。身勝手な振る舞いを考える「ひととき」です。幸いなことに、お付き合いいただき懇切な回答をくださる人に恵まれています。いただいた回答を考えることも「私のひととき」になります。

至近例は2月のことで、こんな会話を交わしたことがありました。“DICOMでPACSデータとしてX線撮影の被曝線量を記録できるシステムが普及しているのでしょうか。原発由来の被曝に関心の高い今、X線検査の被曝線量を記録し説明できることは重要なことと考えますが。”といった調子です。

悲しいことには、教えていただいた事を活かすことなく忘れてしまうことです。貴重な時間をお付き合いいただいた方々に礼を失しない工夫が必要です。「プロGRESSなひととき」を持たなきゃ～ と考え込みます。様々な考えに浸る間が、近頃の「私のひととき」です。テーマに沿っているのでしょうか。“変な考えを書く、妙な人だね”との声が届きそうです。

ハイ 申し訳ありません。反省・謹慎します。

2012年3月1日

「頭の切り替え方法」

墨田区 前田幸一

私は一度に多くの事を一緒に考えることが苦手なものですから、断片的に一つずつ考えをまとめるようにしております。

その断片を繋げながら纏めていくのですが、頭が疲れてくると断片そのものが何を考えているのか分からなくなってしまうます。



切り替えというより休養するというほうが適しているのかと思います。
作業の途中で切り替えは、コーヒーを飲みながら少しの休憩で良いのですが疲れてくると混乱してきて纏まりません。

その様な時には自宅のルーフバルコニーの草花や植木の緑を見ることで頭を休めることが多いです。

中でも「佐藤錦」の苗木を見ることが多くなりました。さくらんぼを美味しくいただいた後、だめ元と思いながら種を埋めて様子を見ていたのですが、発芽し二つ葉が出て成長し今年は一メートルほどに成長し葉を茂らせております。

そんな、成長途中のさくらんぼの「佐藤錦」を見ると力の原点を見ているようで心と頭の休養になります。

他にも美味しかった枇杷や文旦・白桃などを種から育てております。枇杷は5年間でかなり大きくなりましたが、まだ花を咲かせてくれません。



文旦は昨年からのので、20センチほどになりましたが頭のほうの葉を虫に食べられてしまい、どのように成長するか不安でもあります。

このような緑の様子を見ていると清涼飲料をいただいた後のように爽やかな状態になるのです。

実は、今井先生から原稿依頼があった時も間に合うかどうか疑問でした。然し、だからこそ書く必要があると思いなおし承諾した次第です。

今日から連休に入りますが、この文章を纏める良いチャンスと思い頭の切り替えを願いつつ植木を眺めております。少しはお読みいただけるでしょうか。

葉を見ながらの文ですからハハハハハ・・・お粗末でした。 4月 28日



「Time flies」

金沢市 宮地利明



年が明けたと思っていたら、もう夏が近づいている。瞬く間である。「time flies (光陰矢のごとし)」とはよく言ったものであるが、時間の過ぎ去る感覚は年とともに速くなって、既に「矢」を追いついて光速に迫る勢いである。本企画ご担当の今井先生から頂いたテーマ「私のひととき」として山歩き、テニス、映画鑑賞、読書など、幾つか思い浮かべることができてなかなか実現できていない。なぜだろう。

事実、この原稿を指名されたときは、まだまだ日にちがあるので、「あれ」と「これ」や

「それ」を片付けた後にゆっくり書こうと思っていたのだが、次々に新たな「それ」や「あれ」が飛び込んで、とうとう原稿締め切り日になってしまった。今、出張で金沢から東京に向かう機内で原稿を書きながら、窓から日本三名山の白山（写真：機内から）（残りは富士山と立山）を見ているが、今年も白山に登れないなとため息が出る。12年前に金沢に異動して以来、毎年白山に登ろうと思っていたが、このところ行っていない。少年時代に限りなく遅い時間の流れを持て余していたのは何だったのだろう。あの頃なら、「私のひととき」の時間も持てるし、この原稿にどれだけでも時間を費やすことができるのに・・・。



時間は間違いなく主観的である。アルバート・アインシュタインが時間の相対性を証明するずっと以前から、時間が感覚的なものと人類は認識していた。素敵な女性と一緒にいるときのように楽しいことはあつという間に時間が過ぎるが、辛いことはなかなか過ぎない。浦島太郎もそうであった。私の場合なら、好きな山歩き、テニス、映画鑑賞、読書に興じている時はあつという間であるが、町内会の草刈りはなかなか終わらないということか???

何れにしても、時間を長くするのも短くするのも本人次第である。冒頭に、「時間の過ぎ去る感覚は年とともに速くなって―」と摂理のように書いたが、時間を短くし「光陰」を「矢」にしていたのは、忙しさにかまけている自分自身であった。調度、ミヒャエル・エンデの著作「モモ」の時間泥棒の話を思い出した。この機会に生活や仕事を見直し、ぜひ「私のひととき」を思う存分堪能できるようにしようと思う。

~~~~~

## 《訃 報》



中間光雄先生は、平成23年11月9日逝去されました。（享年95歳）  
中間先生は1964年から1969年までの6年間、北海道代表の本部理事として遠路、京都まで来られ、学会の事業執行に尽力されていました。また、個人研究にも努力され次のような研究発表をされています。

1957年「バイアス方式による拡大撮影焦点について」

1967年「北海道におけるエックス線技師数について」

1979年「医療用高エネルギー加速器（10Mevリニアック）使用室の遮蔽について」

また、FAR情報誌、平成15年5月号の特集「私の健康法」の中で、研修会や講演会の帰りに、若い方々と赤提灯でお酒を酌み交わしながらの語らいが一番の健康法。と述べておられます。

先生のご冥福を心からお祈りいたします。



松田義勝先生は、平成24年1月12日に逝去されました。（享年96歳）  
先生は技術学会北海道支部会長として活躍され、現在の北海道部会の礎を築かれました。

1962年「胆道断層撮影」

1970年「レノグラムについての考察」を  
市立小樽病院放射線科の方々と発表しておられます。

平成18年10月の秋の懇親旅行「北への集い」に参加され「定山溪グランドホテル 瑞苑」で楽しいひとときを過ごしました。写真はその時のものです。

先生のご冥福を心からお祈りいたします。

~~~~~

《会員投稿》



「癒しの一枚」

京都市 清水久子

秋の懇親会 平成18年10月21日～22日「北への集い」
北海道芸術の森「有島武郎旧邸」にて。
自然の美しさに酔いしれて昔を懐かしみ、語り合っているよう
な・・・私のお気に入りの写真です。

~~~~~

## 《JSRT情報》

『第40回秋季学術大会』 大会テーマ：「Medical Scienceの一員としての心柱sを求めて！」

大会長：保科正夫（群馬県立県民健康科学大学）

会 期：平成24年10月4日（木）～6日（土）

会 場：タワーホール船堀（東京都江戸川区）

『第69回総合学術大会』 大会テーマ：「Creation, Innovation, and Globalization

—知の創造、技の革新、そして世界へ—」

大会長：杜下淳次（九州大学大学院）

会 期：平成25年4月11日（木）～14日（日）

会 場：パシフィコ横浜会議センター他

~~~~~

《原稿・作品募集》

【第34号特集テーマに対する原稿募集】（9月15日発行予定）

■□■□■□「 絆一再考 」□■□■□■

FAR情報誌 第34号特集テーマは、「絆一再考」にしました。

震災後、家族のつながり、生活態度など、日本のよい風習が還ってきているように感じます。

自分の家族、地域のつながりなど綴っていただければと思います。（特集企画 富吉 司）

記

原稿内容：副題（ご自由な題をお付けください。）

原稿文字数：800～1200字（400字原稿用紙で2～3枚程度）

写 真：先生の写真（半身）及び内容に関わる写真を原稿に添えてお送りください。

写真はカラープリントまたは電子データいずれでも構いません。

原稿形式：手書き、ワープロ印字、メール添付など何でも結構です。

提出期限：8月15日必着でお願いします。

送 付 先：富吉 司 〒899-1629 鹿児島県阿久根市塩浜町2-160 宛

Tel 0996-79-4710 E-mail: K3925285@kadai.jp

【会員投稿、作品の募集】

毎号掲載している《会員の広場》に、趣味の話や旅行記、絵画、書、写真など気軽にご投稿下さい。

原稿の文字数は600～800字（多少の伸び縮みは構いません）で手書き、メール、ワープロ、フロッピー、郵送のいずれでも結構です。

原稿は随時受け付けていますが、34号の締切は8月15日になります。

投稿される際は、旅先の写真や趣味で楽しめる写真を付けて頂ければより説得力が倍加します。

【送付先】 山田和美 〒270-0131 流山市美田69-293・Email:kazumi40.yamada@nifty.com

~~~~~

## 《連 載》

### ご当地自慢『わが街 徳島』

徳島市 八木浩史



突然、「ご当地自慢」について書いてほしいとメールが届きました。当然、何の準備があるわけでもありませんでしたので、今まで県外客を御案内した観光地を紹介させていただきます。しかも、締め切りが迫っていますのでインターネットを利用します。

詳細は記載した URL を閲覧して下さい。

鳴門から始まり、鳴門池田線（通称鳴池線；県道 12号）を池田方面へ西進し、祖谷まで御案内させていただきます。

#### 1. 鳴門の渦潮

(<http://www.uzunomichi.jp/>)

鳴門海峡は、本州と四国の間に

ある瀬戸内海と太平洋とを結ぶ海峡の一つで、潮汐により渦が発生します。遊歩道の先端にある「渦の道展望室」は大鳴門橋の橋桁空間いっぱいを利用した回遊式展望室です。渦上 45メートルの高さから展望室のガラス床をのぞけば、渦潮や轟音とどろく激しい潮流を体感することができます（が高所恐怖症なので経験はありません）。

【注意】季節によって渦の大きさが異なり、時間帯によっては渦を見ることができません。事前に渦潮の見頃調査が必要です。



#### 2. 大塚国際美術館 (<http://www.o-museum.or.jp/>)

「大塚国際美術館」は、大塚グループが創立75周年記念事業として徳島県鳴門市に設立された日本最大級の常設展示スペースを有する「陶板名画美術館」です。のめり込むと時間経過が判らなくなるほどにすごいとのこと。

鳴門観光の後、浄瑠璃に興味のある方は寄り道をして下さい。国道 55号線を徳島市内へ向かい吉野川の手前を左折すると阿波十郎兵衛屋敷があります。



#### 3. 阿波十郎兵衛屋敷 (<http://joruri.info/jurobe/>)

館内には、かつて神社の境内によく見られた農村舞台を模した舞台と観客席があり、阿波人形浄瑠璃を毎日上演しています。また木偶（でこ）人形や人形浄瑠璃の衣装などの資料も充実しているほか、人形の動かし方や大夫、三味線など演者の役割についても学べます。

鳴門池田線（県道 12号）を池田方面へ西進しますと、大谷焼の窯元が点在します。

#### 4. 大谷焼 (<http://www.tsci.or.jp/ooasa/ootaniyaki.html>)

大物陶器とそれを焼く登り窯は有名で、日本一と評されています。近年は民芸調の雑器をはじめ、オリジナリティーあふれる芸術品ま



で、暮らしの中に息づいてきた素朴な暖かさを大切にしたい意欲的な作品が次々と作られています。

さらに西進すると四国八十八カ所 1 番札所霊山寺があります。

#### 5. 第 1 番霊山寺

(<http://www.88shikokuhenro.jp/tokushima/01ryozenji/>)

堂々たる構えの本堂には本尊釈迦如来を安置してあり、その右手の大師堂からお遍路さんが遍路の旅に出発されます。最近歩き遍路も多く、見知らぬお遍路さん同士の出会いにも温かい

ふれあい生まれ、楽しい旅を続けられるそうです。

近所には松平健主演の映画「バルトの楽園」（バルトとはドイツ語で「ひげ」の意）で知られる板東俘虜収容所の資料を展示した「鳴門市ドイツ館」、「死線を越えて」の著作で知られるキリスト教社会運動家賀川豊彦を記念する「鳴門市賀川豊彦記念館」や阿波國一之宮「大麻比古神社」（地元では「おわさはん」とも呼ぶ）などがあります。

霊山寺から西に少し向かうと 2 番札所「極楽寺」が道路際にあります。ここの庭は私のお気に入りです。必ずお立ち寄り下さい。

土成 IC を目標に進み、国道 318 号線に出会い高松方面に向かいますと、是非、賞味していただきたい「たらいうどん」があります。

6. たらいうどん (<http://www.awanavi.jp/category/0003626.html>)

阿波市土成町の郷土料理で、大きな「たらい」に湯だめしたコシの強い手打ち麺をだし汁につけながら大勢で楽しく食べるスタイルが特徴的な料理です。伝統的には、だし汁に「じんぞく」と呼ばれる川魚が使われていました。宮川内谷川沿いに店舗が点在しており、風情のある溪谷美を眺めながら食べることができます。最近、「婚活うどん」なるものもあるそうです。

食事の後は国道 318 号線を徳島市内に向かいますと有名な阿波藍の資料館「藍の館」

(<http://www.town.aizumi.tokushima.jp/kanko/ainoyakata/>) がありますので、是非、藍染め体験をお楽しみ下さい。

この鳴門池田線（県道 12 号）沿いには四国 88 カ所札所が点在していますので、時間の許す限り御参拝下さい。



土成 IC から徳島自動車道に乗り、次の脇町 IC で降りますと「阿波の土柱」；切り立った断崖が風雨に浸食されてできた土の柱で世界的にもまれな景観があります。さらに、「うだつの町並み」 (<http://www.city.mima.lg.jp/4/64/003251.html>) で有名な脇町も近くです。

脇町には山田洋次監督の「虹をつかむ男」のロケ現場になった「脇町劇場（オデオン座）」があります。

少し先を急ぎたいと思います。脇町 IC から徳島自動車道に乗り井川・池田 IC で降り、国道 192 号線から国道 32 号線を高知方面に向かい祖谷を目指します。

途中に「大歩危峡」 (<http://www.miyoshinavi.jp/>) があります。



さらに高知を目指しますと祖谷方面への進入道がありますので祖谷に向かい「祖谷温泉郷」(<http://oboke-iya.jp/hotel/>) で宿泊して下さい。



それぞれ特徴のあるホテル・宿があります。地元料理は美味ですよ。

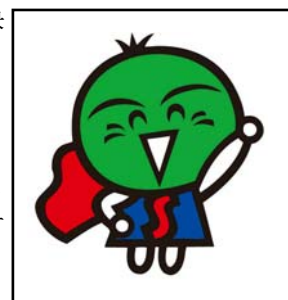
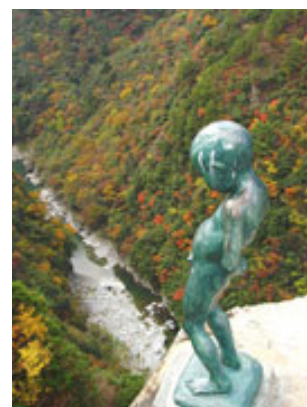
一夜明ければ「祖谷のかずら橋」を見物して下さい。

#### 7. 祖谷のかずら橋

(<http://www.awanavi.jp/>)

緑の葉陰から浮かび出て、兩岸の老木に重みを託し、そよ風にゆらゆらゆれるかずら橋。祖谷川の清流に、その影を映した悠然たる姿は、一年を通し、自然と調和した美しい景観を生み出します。

この後、国道 32号線に戻りますが、行きでも帰りでも結構ですから必ず「小便岩」



徳島県マスコット  
「すだちくん」

(<http://miyoshinavi.jp/>) を見物して下さい。

国道 32号線に戻り高知方面を目指し、大豊 ICから高知自動車道に乗ると高知、松山、高松方面に行けますので、さらに四国の旅をお楽しみ下さい。

~~~~~

《編集後記》

JRC2012、日本放射線技術学会第68回総会学術大会が盛大に終了しました。土井大会長、錦実行委員長おめでとうございます、そしてご苦労様でした。

昨年の悔しい思いを噛みしめて学会に参加された方も多かったと思います。

FAR会情報誌33号をお届けすることが出来ました。安堵しています。懇親会終了後の原稿締め切りが短く、やっとかきあげたと思ったら、今度は編集後記だと。

本当に人使いの荒いFAR会だこと。荒れたのはFAR会懇親会の屋形船の出港時だけかと思っていたらゴールデンウィークの天候の荒れ方もすごかったですね。

最近の天変地異についていけず頭がこんがらがっています。短期間での大量の雨、そして落雷、雹、また今まで最大の竜巻の発生など今までと何かが違う。太陽の黒点の数も変化しているし、磁場も二つに分かれて存在してきて、これから地球は氷河期に進むのではないかとの噂もちらちら。そういえば 5月21日は金環日食の日だ。何も起こらなければ良いが。

「困ることは起こらない。全てが上手くゆく」をモットーに。

情報誌33号にあまり関係ない編集後記で申し訳ないです。ハイ

(石井 勉 記)



FAR情報誌 No. 33 (非売品)

発行日 平成 24 年 5 月 15 日
発行者 橋本 宏
編集委員会 山田和美 (委員長)
伊藤博美 森 克彦
石井 勉
山田連絡先 Tel&Fax: 04-7153-4559
Email: kazumi40.yamada@nifty.com